

# 豊前海でのカキ採苗技術の確立に関する研究

豊前海研究所

## 背景、目的

現在、豊前海区の冬期の主幹漁業の一つとなっているカキ養殖では、その種苗のほとんどを県外（主に宮城産）に依存していますが、近年では種苗の需要の拡大や採苗の不漁の影響で、種苗の安定確保に問題が生じ始めています。

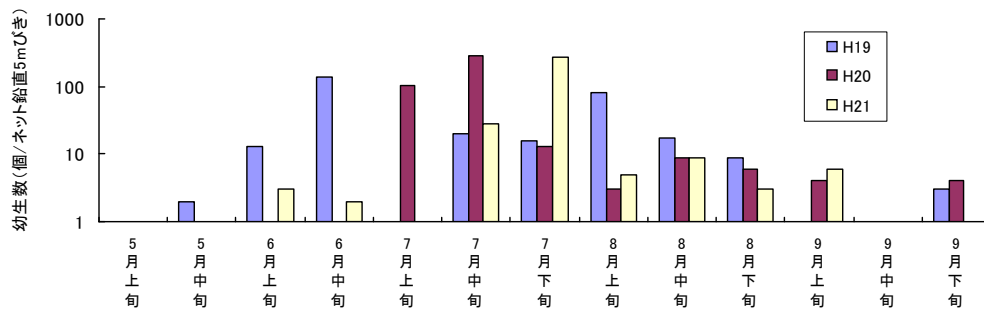
そこで、本研究では他の海域に依存しないカキ養殖を目指すため、当海区産種苗（地種）の採苗試験や成長比較試験を実施し、海区内での種苗確保の可能性を検討しました。

## 成果の概要

### （１）浮遊幼生調査・天然採苗試験

浮遊幼生は7月をピークとした高水温期に出現することが分かりました。

また、採苗適期の目安はおおむね①浮遊幼生の初確認から約1ヶ月後で、②付着期幼生が初確認された頃となることが分かりました。



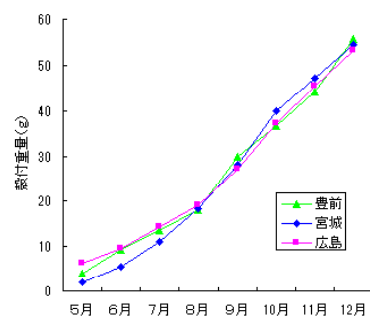
カキ浮遊幼生の出現状況（南部漁場）

### （２）地種成長試験

地種と既存産地種苗（宮城・広島）との成長試験を実施したところ、地種は既存の種苗と同等に成長し、種苗としての有効性が確認されました。



産地別カキの生育状況(上から宮城、豊前、広島種苗)



地種種苗の育成試験結果（殻付重量）

### （３）現場普及

平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により宮城産種苗の確保が不安定になりました。このため本研究成果をもとに漁業者指導に努め、23年度に海区内で初となる大規模な地種採苗に取り組みました。



採苗した地種